

## 書評 道垣内弘人著 信託法入門

東京大学大学院の道垣内先生は、当機構の不動産取引紛争事例等調査研究委員会（通称「升田委員会」）のメンバーの一人です。

また、2005年度には、当機構の信託研究会の座長として、研究会報告の取りまとめもして頂きました。

信託研究会を開催したとほぼ同じ時期に、信託法の80年ぶりの改正案が、検討～起草～国会提出～審議～成立 となりました。勿論、道垣内先生は、その検討・起草段階での有力な関係者の一人です。成立にもご尽力されました。

本書「信託法入門」は、そういう経緯を踏まえ、まさしく斯界の第一人者が、これから信託と付き合っていくことになる世間一般の実務者のために、書き下ろしたハンディな新刊です。

本書の目次は以下の通りです。

- I 信託とは何か
- II 信託の設定
- III 信託財産
- IV 受託者による取引のメカニズム
- V 受託者の義務と責任
- VI 受益者の地位
- VII さまざまな変更
- VIII 信託の終了・清算・倒産

どういうビジネスにおいてどういう風に信託を使うべきか、いまだ解りにくいかもしれませんが、先生は具体の判例等を用いながら、簡にして要を得た説明をされていますので、信託に関するビジネスマン必見の書となっています。

日本経済新聞社日経文庫 2007年5月15日刊  
全241ページ 定価 1000円+税